

平成30年度 国語科実践・研究計画

部 員	○鎌田 雅子, 小松田ひかり, 菅野 宣衛, 熊谷 尚
-----	-----------------------------

研究テーマ

言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

言葉には力がある。目には見えない言葉の力。言葉の使い方や意味を感覚的に身に付けてきた子どもたちが、言葉の新たな価値に気づき、よりよい使い方を獲得していくことが国語科の学習である。

言葉の効果を自覚し意図的に用いたとき、言葉に力が宿る。また、言葉の使い方によって様々な効果が生まれることを理解した上で言葉と向き合ったとき、使い手の思いを感じることができる。言葉の仕組みや働き、文脈や構成のような言葉と言葉のつながりが生み出す効果を実際の活用場面と関係付けて理解し、よりよく言葉と向き合おうとする子どもの姿を期待し、研究を進めている。

研究主題〈自律した学習者を育てる〉を受け、国語科の研究テーマを「言葉の力を自覚し、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び」に設定した。

国語科における「自律した学習者」を、これまでの生活経験、学習経験から言葉との向き合い方を自ら考え、実践していこうとする姿ととらえた。向き合った言葉を自分なりに咀嚼し、言葉に込められた思いにまで適切な想像力を巡らせて受け入れたり、獲得した学びを自らの言葉の用い方に活かしたりする子どもの姿を見据えて研究を進めていく。また、「学びをつなぐ」を、これまで無自覚に使ってきた言葉の使い方、効果を自覚し、次の学習場面や生活の中で活用する姿ととらえている。

研究テーマの「言葉の力」とは、その言葉自体が生み出すリズム、美しさ、醸し出す微妙なニュアンスといった受け手の語感に訴えてくるものである。そして、個々の言葉の結び付きによって生まれる、言葉の受け手の感覚に訴えたり心を動かしたりする効果のことである。また、「言葉とよりよく向き合う」とは、これまで学んだ語句や表現技法、構成の工夫に着目した言葉の受け入れ方を活かして言葉を豊かにとらえたり表したりすることである。

国語科で目指す「学びをつなぎ、資質・能力を高めていく子どもの姿」とは次のようなものである。

- ・ 言葉に対する知識を生かして、言葉の意味を深くとらえようとする姿
- ・ 根拠となる言葉を見付け、課題や問題に対する考えを互いに表現し合う中で新しい言葉の効果を見いだそうとする姿
- ・ 1単位時間の学びや単元を通して言葉や効果について学んだことをふり返り、次の学習へ生かそうとする姿
- ・ 既習の言葉との向き合い方を、単元を越えて活用する姿

2 研究の重点

1 言葉との向き合い方を学びとして獲得し、積み重ねることのできる単元構成の工夫

単元の導入段階では、教材と出会ったときの気付きや疑問から学習問題を子どもとともに考える場を設定する。1年「どうぶつの赤ちゃん」の実践では、「どんな動物の赤ちゃんが出てくるかな？」と子どもに予想させてから教材を読んだ。子どもたちの期待を大きく裏切り、書かれているのは2種類の動物であった。そこから「なぜ、ライオンとシマウマの赤ちゃんを書いたのかな。」という問いが生まれ、「対極の関係にある動物を比べて書くとそれぞれの特徴が引き立つ。」という対比を用いた書き方の工夫とその効果について考えることができた。

単元の終末には、「学び方」と「言葉について学んだこと」をふり返る場を設定する。その際には、「これまでの学習でも当てはまること」という視点と、「今回新しく分かったこと」という視点で学習を見つめ直すことで、学びと学びとをつなげ、活用していこうとする態度を育てる。

2 言葉による「見方・考え方」を働かせることで、新たな言葉の効果を見いだす授業展開の工夫

その教材ならではの言葉の効果に子ども自身が気付いていく授業展開を目指す。そのためには、どのような「見方・考え方」で言葉をとらえていくことが必要なのかを明確にする必要がある。3年生「花を見つける手がかり」の実践では、既習の説明文との「問い」の叙述の違いに着目し、消去法を用いた論の進め方とその効果を考える子どもの姿が見られた。子どもがどのような気付きを掘り下げることが「見方・考え方」を自ら働かせる姿に結び付くのか探っていく。

時 期	主な研究・研修行事	研究・研修内容
1 学期	<ul style="list-style-type: none"> 第1回校内研修会（4/26） 提案授業（菅野：6 A） 大学との連携授業 附属中学校公開研究協議会（6/1） 附属小学校公開研究協議会（6/8） 提案授業（鎌田：4 A, 小松田：2 C） 	<ul style="list-style-type: none"> 実践・研究計画の立案 附属中学校との共同実践・研究 公開研に向けての指導案検討及び事前研究授業
2 学期	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要原稿執筆 ※部内研修会を兼ねる 東北地区国語教育研究協議会秋田大会 文集「いちょう」編集・発行 	<ul style="list-style-type: none"> 実践・研究のまとめ 実践・研究計画の修正 研究会等の参加による研修と情報交換
3 学期	<ul style="list-style-type: none"> オープン研修会（1/24） 提案授業（小松田：2 C） 	<ul style="list-style-type: none"> 次年度の課題検討 次年度の実践・研究計画の立案

通年：教科部会、年間指導計画及び資質・能力表の加除・修正

